塾と競合

「理科で遊ぼう会」がまだ、始まったばかりの頃、近所の公民館で、「モーター組み立て」の

授業が企画され、それに、近所のお子さんを誘ったことがあります。

「塾」があるのでと、断られました。　「塾」より、こっちの方が、ためになりますよ！と

言いたいところですが、まぁ、仕方がありません。

仮に、塾で、こんなテストがあったとしましょう。

以下の果物、野菜で、水に浮くものには、マルを、沈むものにはバツをつけよ。

トマト、きゅうり、かぼちゃ、ナス、キャベツ、玉ねぎ、・・・・

上のテストに対しての勉強法として、次の二通りがあります。

（１）教室に、水を張ったバケツを持ち込み、果物、野菜をほり込んで観察する。

（２）水に浮く、または、沈む、果物、野菜を調べて、表にした資料を配り、ひたすら、覚える。

「理科で遊ぼう会」でやるなら、当然（１）で、やるでしょう。

　テスト競争に勝ち抜くためには、悠長な実験をやっているより、（２）の方が手っ取り早く、効率的。

「塾」では、こちらの勉強法が採用されます。

小・中・高校で、まるきり、これと同じような授業が行われているとは、思いませんが、当面の学期末テストや、受験戦争に勝ち抜くためには、実験よりも、記憶する、考え抜いて理解するより、手っ取り早く覚えることが、優先されているのではないでしょうか？

親ごさんも、テストの点数が上がれば、学力がついたと、喜んでおられるようですが、

その結果、「勉強とは、覚えること」との錯覚が、おられるわけですが、

大学入試で、もう少し丁寧な選び方＝税金を投入される方はかなわない

大学入試が物知り競争のようになってきているのでは、ないかと危惧しています。

えらく物知りの塾の有名先生が、テレビの主役になってますね。

孫の持っている電子勉強機、いかに多くのクイズに素早く回答するかで、入試が決まっていくような仕組み、勘違いならいいのですが。